

# 光学医療診療部

## ■ スタッフ（項目見出しスタイル）

部長		堀木紀行
副部長		田中医介
医師数	常勤	6名
	併任	6名
	非常勤	1名
内視鏡技師	I種	2名
	その他技師	2名
看護師	常勤	1名
	非常勤	4名
事務職	非常勤	1名
その他	洗浄員	2名

## ■ 光学医療診療部の特色

- ① 内視鏡3室と透視2室は十分なスペースを確保しており、さまざまな検査や治療にも対応できる構造となっている。
- ② 透視室のうち1室は陰圧室となっており、気管支鏡検査に対応できる空調装置を設けている。
- ③ 透視装置には防護カバーを装着して検査を行っており、スタッフの被爆を最小限に抑えるような配慮がされている。
- ④ 透視室を含む全トロリーに超音波内視鏡装置が設備されており、いつでも超音波内視鏡検査が可能である。また、大学病院の特性としてEUS-FNA症例が多いためALOKA SSD-α10を備えた。
- ⑤ ダブルバルーン内視鏡の使用頻度が高く、2セット用意することで透視2室同時に検査や治療（例：胃全摘後の総胆管結石除去など）を行うことが可能である。
- ⑥ 洗浄室は換気装置が設けられた独立した設計になっており、スコープの洗浄が行いやすいように特注のシンク台を設置、専任の洗浄員を配置している。

## ■ 診療体制と実績

### 1. 業務体制

当診療部は、日本消化器内視鏡学会および日本気管支学会の指導施設であり、最先端の内視鏡診療と教育を行っている。消化器肝臓内科、消化管および肝胆膵外科、呼吸器内科、耳鼻咽喉・頭頸部外科、

総合診療部、救急部、放射線科の医師と協力して、消化器疾患、呼吸器疾患、咽頭・頸部疾患領域の内視鏡検査・内視鏡治療を行っている。当部門の内視鏡画像データはデジタルファイリングされ、大学のネットワークを介して、外来・病棟等で参照が可能であり、診療・教育等に利用されている。

消化器領域では、拡大内視鏡や超音波内視鏡を用いて、病変が詳細に検討されている。早期胃癌や早期大腸癌に対する内視鏡的粘膜切除術、同粘膜下切開剥離術、消化管出血・消化管狭窄の治療、食道静脈瘤硬化療法・血紮術、内視鏡下胃瘻造設術、胆管・膵管内結石の治療、狭窄胆管・膵管の拡張術等を行っており、非侵襲的に良好な治療成績を上げている。また、胃・十二指腸疾患の原因菌とされているヘリコバクター・ピロリ感染の診断と治療についても豊富な経験を有している。呼吸器領域では、気管支鏡を用いて、肺癌等の胸部腫瘍性疾患の診断と内視鏡的治療、喀痰採取による気管支鏡下細胞診等を行っている。

研修医は臨床研修制度によりローテーションしてくるため、個々人の興味を見ながら研修に即した内視鏡指導を行っている。消化器内科や内視鏡医をめざしている医師に対しては、本人の力量、やる気、興味により習得速度が異なるため、段階的な到達目標を作成することに効率のよい研修を行う。以下に、三重大学医学部附属病院光学医療診療部の研修プログラムを提示する。なお、当科では医局に属することなく研修を受けることも可能である。

### 2. 診療実績

実績（2012年1月～2012年12月）

#### 1) 診断

上部消化管	3318件
下部消化管	1270件
ERCP	334件
EUS	351件
腹腔鏡	2件

#### 2) その他

小腸内視鏡	96件
カプセル内視鏡	107件
EUS-FNA	92件

#### 治療

ポリアクトミ-EMR（下部）	115件
ポリアクトミ-EMR（上部）	9件
ESD	71件

#### 3) 膵胆系

EST	84件
スト挿入	136件

止血 104 件  
食道静脈瘤 92 件  
異物除去 2 件  
消化管拡張術 61 件  
PEG 27 件

(注)平成23年1月に新病院内視鏡室移転、新システム導入に伴いかなりの検査数を制限したため今年度の検査数はあくまで参考値としてください。

## ■ 今後の展望

新病院となり検査室が増えたことでさまざまな治療・検査が並列して行われるようになり、検査開始時間が遅くなることは少なくなった。対応する看護師が少なく、看護師不足が問題となっている。現在、内視鏡技師資格を有する看護師であれば、内視鏡室専属の正職員看護師として受け入れることが可能である。今後は内視鏡エキスパートスタッフを増やし、育成や研究にも力を入れてゆく予定である。

<http://www.medic.mie-u.ac.jp/gastro/koshin/koshin.html>